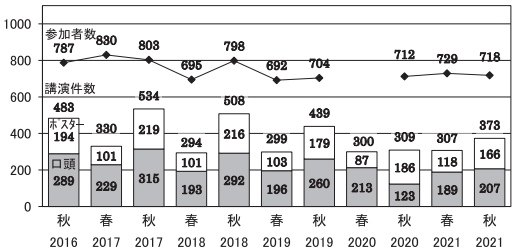
2021年度秋季大会の報告

2021年度秋季大会は，12月２–４日をオンライン，12月６–８日を三重大学（三重県津市栗真町屋町1577）での対面形式とするハイブリッド形式で2021年12月２日（木）～2021年12月８日（水）に行われた．

大会は，一般講演，並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する５件の専門分科会で構成された．発表は，大会ウェブサイト上に発表資料を掲載し，ウェブサイト上で質疑応答を行うオンラインポスター講演と，三重大学での対面形式の口頭セッションで行われた．オンラインポスター講演は全講演者を対象とし，口頭セッションは希望者のみを対象として実施した．一般講演の発表件数は311件（内，口頭発表155件），専門分科会は62件（内，口頭発表52件）で計373件であった（第１図）．参加者718名のうち現地参加は約450名，リモート参加のみは約270名であった．

12月７日午後は，各賞の授賞式とシンポジウムが三翠ホールで行われた．授賞式とシンポジウムはオンライン中継が行われた．授賞式では理事長，大会実行委員長の挨拶に始まり，田村岳史氏と飯泉仁之直氏に堀内賞が，伊藤純至氏と宮本佳明氏に正野賞が，勝山祐太氏と高橋直也氏に山本賞が，岩嵜利勝氏に小倉奨励賞がそれぞれ授与され，堀内賞，正野賞，山本賞の受賞者による記念講演が行われた．シンポジウム「気象学の最新知見を活かした地域との協働～地球温暖化時代の持続可能な社会への転換を目指して～」では４件の基調講演とパネルディスカッションが行われた．

大会中日の12月４日（土）に真鍋淑郎博士のノーベル賞受賞決定を祝して，特別企画「真鍋淑郎博士の業績と素顔」がオンラインで開催された．



第１図　過去５年間の大会参加者数と講演件数（口頭，ポスター）．2020年度秋季大会以降のポスターの件数は，オンラインポスター講演のみを実施した講演の件数．2020年度春季大会は予稿集の発行により大会開催としたため，参加者数は無しとした．

ウェブ会議システムにより，12月２日夕に第10回気象学史研究会が，12月３日夕に統合的陸域圏研究連絡会が開催された．同日昼には女性会員の集いが開かれた．

今大会の開催に当たり，７の企業・団体からご協賛・ご協力ならびにリクルートブースご開設を頂きました．厚く御礼申し上げます．

最後に，大会実施にあたり，三重大学，名古屋地方気象台，名古屋大学，愛知教育大学，日本気象予報士会東海支部，津地方気象台，富山大学，東海大学，日本気象協会中部支社，電子情報委員会，人材育成・男女共同参画委員会の皆様にご協力を頂きました．ここに深く感謝の意を表します．

2021年12月　講演企画委員会